



## ナイル川は、どうして定期的にはんらんするの

### 青ナイルの上流はエチオピアの山中

ナイル川を上流へさかのぼって行くと、たくさんの支流に分かれます。スーダンの首都ハルツームでは、ウガンダのビクトリア湖から流れてくる白ナイルと、エチオピアから流れてくる青ナイルが合流して、ナイル川の本流となっています。この青ナイルの上流の、エチオピアの山中では、季節風の影響で、毎年、定期的に大雨が降ります。その雨水が、青ナイルに流れこむため、下流のナイル川では、毎年、定期的に水かさが増えて、はんらんするので

### ナイル川の水位の変化

ナイル川の水が増え始めるのは、毎年、6月からで、9月ごろまでは増え続けます。10月になれば減り始め、翌年の2月ごろまで急速に減っていきます。その後は6月まで、水がひじょうに少ない、乾燥期が続きます。ナイル川がはんらんして、農作業ができなくなるのは、7月の中ごろから、12月の中ごろまでです。その後は、水が減って現れてきた土地に、種をまき、乾燥期に取り入れます。この変化が、ほとんど一定しています。かんがい技術が発達していなかった、昔のエジプトでは、このようなナイル川の水位の変化に合わせて、農作業を行っていたのです。（監修・青木 国夫）

